

第9回 四国圏広域地方計画有識者懇談会 議事要旨

1. 日時：令和8年1月23日（金）10:00-12:00
2. 場所：高松サンポート合同庁舎13階災害対策室（TeamsによるWEB会議併用）
3. 出席委員
（対面出席） 那須委員、入江委員、香西委員、坂本委員、豊田委員、中橋委員、山崎委員
（WEB出席） 近藤委員、隅田委員、淡野委員、芳我委員、原委員、町田委員
4. 議事
1) 新たな「四国圏広域地方計画」の策定に向けて

<主な発言内容> 委員発言順

（1）議事

事務局より議事について説明を行った後、各委員から意見などの発言があった。各委員から出た意見は以下のとおり。

1) 第8回四国圏広域地方計画 有識者懇談会以降の主な追加事項

- ・ 計画素案の地域生活圏について、地域生活圏の理念や連携中枢都市圏等の議論が記載されているが、高規格道路などのハード整備が記載されることで議論がぶれるので、地域生活圏の生活に不可欠な交通を記載するのであれば、デマンド交通など地域内の交通を書くのが相応しいのではないか。
- ・ 広域交通を担う道路と地域の道路が連結することにより、道路網が早期形成されることで地域生活圏が実現するという、手段ではあると思うので、記載内容の検討をお願いする。
- ・ 計画素案に差し込んだ若者との意見交換のコラムは、広域地方計画本文の内容とは切り離されており、補足になっていないと思われる。例えば具体的な場所とかイメージできる写真などを掲載できれば良いと思われる。
- ・ ナイトタイムエコノミーの促進とあるが、「エコノミー」なので地域経済が循環する仕組みづくりが望ましい。

- ・ ナイトタイムエコノミーは、様々な形態があり、特定の書くのは難しい。
- ・ ナイトタイムエコノミーは、エンターテインメントがキーワードになる。夜間ならではのイベントの企画開催やグルメ目的の飲食行動誘発など、一般性がありかつイメージが湧きやすい例を記載してはどうか。
- ・ たとえば東京と四国で二拠点生活をしていて、四国に住民票が無いために子どもを保育所に預けられないなどの問題があり、移住を促進しているのなら、そのような多拠点の生活スタイルの家族にも対応できる子育て支援の柔軟な制度が必要だと思われる。

2) 若者との意見交換・コラムについて

- ・ 若者との意見交換について、何のために意見を聞いているのかが分からず、意見交換の結果から、若者から聞かなくても協議会で検討した内容の範囲と思われる。若者たちが真剣に自分の地域について考えてもらう機会を提供するという目的の方が重要になると思う。本文へのこのコラムの入れ方だと、唐突感があり良く分からない配置となっている感じがする。
- ・ 国の政策立案のところに若者の意見が入るのは非常に大事なことだと思う。意見交換に参加した学生からは、その意見をどのように役立ててもらえるのか、また、若者が何か役に立てることがあるのかという話があった。まちづくりから健康づくりにつながるとか、ウェルビーイングのためのインフラ整備みたいなニュアンスが入るような表現を加えていただけると良い。
- ・ 若者との意見交換のコラムを入れる位置は、確かに唐突感はあるが、若者が自分の意見・アイデアがコラムというかたちで反映されていることを実感できる、良いフィードバックのかたちだと思った。参加した学生については、まちづくりや計画に対する意識の変化が確実に見られた。
- ・ 若者との意見交換を行う意義は、学生に広域地方計画というものが作られていることを知ってもらうこともある。整備局では開催の意義は持っていたと思うが、開催した4～5年間のうちにそれが伝わったのかは気になる。また、コラムを開きやすくするよう、コラム用のインデックスを加えるとともに、若者との意見交換を実施した趣旨も1ページ程度で加えてはどうか。また、コラムの色使いについて、四国四県の色イメージで分けてはどうか。
- ・ やはり、最初に1ページ程度学生との意見交換に関する趣旨の説明があった方が、読み手もコラムを見てみようと思えると思う。また、コラムの中に対象の場所を示す地図

を入れた方が、四国のどこの話をしているかが分かるので良い。また、ページ数が許すならば、最後に学生の意見の中でも大事な点、次回の計画にも関わるようなまとめがあると良いと思った。計画本文の中に、急に大きな文字のコラムが出てきて全体の統一感がない。また、学生の意見が単調に箇条書きとなっているので、意見が多かったところを強調するなど、視覚的に読みやすくする方法があるのではないか。

- ・ 地図上にどこの大学の学生に聞いたかという情報があると、愛媛なら産業的志向、高知なら防災など、地域性によって若者の視点や意識が異なることが見えてくる。コラムを載せる位置づけを考えたとき、コラムの中身的に、計画の本文には書けないような、若者の生活観が表れたビビットな表現も出てくる（遊べる場所やショッピングモールがない、など）。その中で、コラム全体に対する注記があれば、計画の内容を読み解く中で、若者の感覚も参考にしてほしいという位置づけになると思った。
- ・ 計画本文に書けないような文言や内容がコラムに出てくるのも面白い。学生の分野は様々であり、各大学の所在県の特徴も結構出ている。ただし、文面的に箇条書きになっており心が無いように見えるので、コラムの内容に足すのではなく、別に補足するような説明文を設ければ良いのではないかと思った。
- ・ 中山間地域の生活・活性化ということで三好市を対象に取り上げたが、徳島市内の学生にとっては実感を伴って理解できなかつた面もあるかと思うので、欲を言えばもう少し学習のリードタイムを取ったり、現地見学会をしたりなど時間をかけて学ぶプログラムに発展していけたらと思う。また、四国の国立大学5校による「知のプラットフォーム事業」などで、四国の未来像をどう描くかというようなプログラムを開催して、地域の課題や今後の国土計画に関する問題意識を醸成するような教育コンテンツが求められると思った。コラムを入れることの重要性は確認した上で、若者との意見交換のようなプロセスを教育にどう生かしていくか、未来の担い手をどう育てていくかということも考える必要がある。
- ・ 若者の定義であるが、社会未経験の大学生だけでなく、例えば20歳代で就職し2～3年経過した若者だと、少し社会を知ることによって、学生の時に理解できなかったことが理解できるようになるなどの成長も見られるので、彼らも若者として意見交換の対象ととらえられる。このような意見交換は、様々なシチュエーションで回数を重ねることで、いろんな意味の姿が見えてくる。
- ・ 若者との意見交換は、継続的に実施し広域地方計画の中にどう生かしていくかを考えて行けたらよい。4県の学生をオンラインでつないで意見を出し合い、お互いの考えを聞きあう場にできれば良い。

- 委員の方々の意見をまとめると、若者との意見交換の意義はあったといえるので、整理の仕方を工夫すれば、地域性が見えて、四国に住む若者が考えていることが伝わり、計画の内容とつながっていることが分かれば、コラムとしての役割を果たすと思う。

3) キャッチフレーズ・ロゴについて

- 文字のロゴマークは、「広域」の文字がうまく読み取れず、人がつながっている様子にも見えない。意図が伝わらないロゴマークなら無い方が良いのではないかと。ロゴマークを入れるのであれば、4つのロゴの上に、人の頭を見立てた黒丸を付ければ、人の形に見えるのではないかと。ロゴマークは正式名称である必要はないので「四国広域」の4文字でアレンジしても良い。また、色分けされたイラストは、四国をかたどった線と色分けだけ（A案）だと地図と違いがないので、イラスト化されている案（B案）が良い。ただし、17ページの表紙イメージに、イラストと写真が両方載せてあるが、載せるならどちらかだけにした方が良い。
- イラストを白黒で印刷する人が多いと想定すると、白黒で色が分からなくなることで、右側（海の絵）はケルト模様みたいな良く分からないものになるが、逆に見た目のインパクトは強くなる。
- 表紙のイメージは、ロゴだと伝わりにくく、写真で構成した方が伝わりやすいと思う。ロゴは無い方が良いと思っており、イラストはB案の方が良いが表紙に持ってくるのは違うと思う。コピーとしては、メインを「誰もが活躍し、豊かに暮らせる四国」でサブを「～個性と人・自然・文化が響き合う～」と組み合わせるのが一番しっくりくると思う。
- 四国らしいコピーを選ぶとすれば案3が良い気がするが、四国全体を「お遍路」という一文化に代表させるのも偏りがあると思うので、キャッチコピーを考える前提となった「四国は一番人口減少が大きい」というのを考慮し四国らしさを出すならば、案1の「ずっと暮らしたい」が、人口減少が激しい中で計画を立てて改善していくという姿勢が特徴的に表れるコピーになると思う。
- 案3は、現行広域地方計画のキャッチコピーと同じような内容になる。案2は産業寄りになる。案1の「誰もが活躍し、豊かに暮らせる四国」と、案4の「個性と人・自然・文化が響きあう」のミックスが良いのではないかと。思う。
- 若者が四国からどんどん流出し、彼らに帰ってきてもらいたいという計画を立てる中で、案1「このまちで、ずっと暮らしたい」というと、今四国にいる人にずっといて欲

しいという話になり、外から帰ってきやすいような要素がないと、四国外に出た人には「四国ですっと暮らしていないからもう帰れない」と捉えられるかもしれない。

- ・ 四国の若者が、仕事が無くて四国外へ出ていくことを考えると、仕事を創るような一言も入った方が良くと思った。案2の「成長と創出」のような、今の状況を仕事の創出で打開する要素について入っていた方が良くと思う。案4の「人・自然・文化」だと経済的な要素が入っていないイメージがある。
- ・ 四国のロゴのデザイン案を見ても、4県の色分けでそれぞれの個性を1つにまとめていくというコンセプトであるので、案2の「4県の個性が連携」は、ロゴとの整合性として相応しい気がする。また、高市政権になって成長重視の方に大きく舵を切ろうとしているので、案2の「成長と創出」を入れると大いにアップトゥーデートされた感じがある。ただし、そのような経済偏重ではなく、個性、誰もが活躍、豊かに暮らせるなどのウェルビーイングを立てるのか、やはり成長と創出を立てるのかは、少し議論が必要だと思う。
- ・ キャッチフレーズの全体感でいうと「誰もが活躍し、豊かに暮らせる四国」は目指すところだと思うが、やはり仕事や産業がないと、出て行った若者も帰ってこられないので、新しいものをどんどんつくるよりは、各県の地域性や環境の特徴を活かして、今あるものを活かすか最先端のものと組み合わせ、未来をつくることを求めていければ良い。どれか1つの案というのではなく、組み合わせることでより良いキャッチフレーズを作れたら良い。
- ・ 委員の皆さんの意見を解釈すると、「誰もが活躍し、豊かに暮らせる四国」に、例えば「個性と人・自然・文化による創出」を組み合わせる感じになるか。「誰もが活躍し」の中に「成長と創出」のような産業の要素が含まれることも考えられる。
- ・ 普通このような広域地方計画のキャッチフレーズは、人に寄り添わないイメージだが、案1の「暮らしたい」は一人ひとりの実感みたいなものが表現され、おそらく他地域の広域地方計画では出てこなさそうなキャッチフレーズで、人に寄り添う四国みたいな打ち出し方になると思う。

4) その他

- ・ 例えば、計画素案の本文中では、年表記が「令和7（2025）年」のようにになっているが、表紙は「2025年（令和7年）」となっており、「年」が2つ入ると違和感がある。

以上